

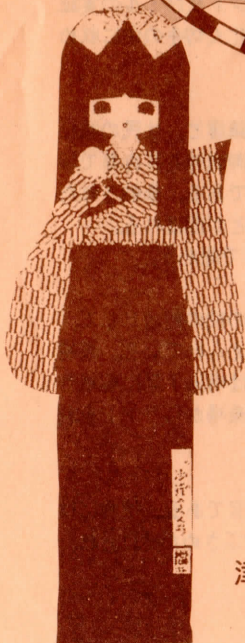
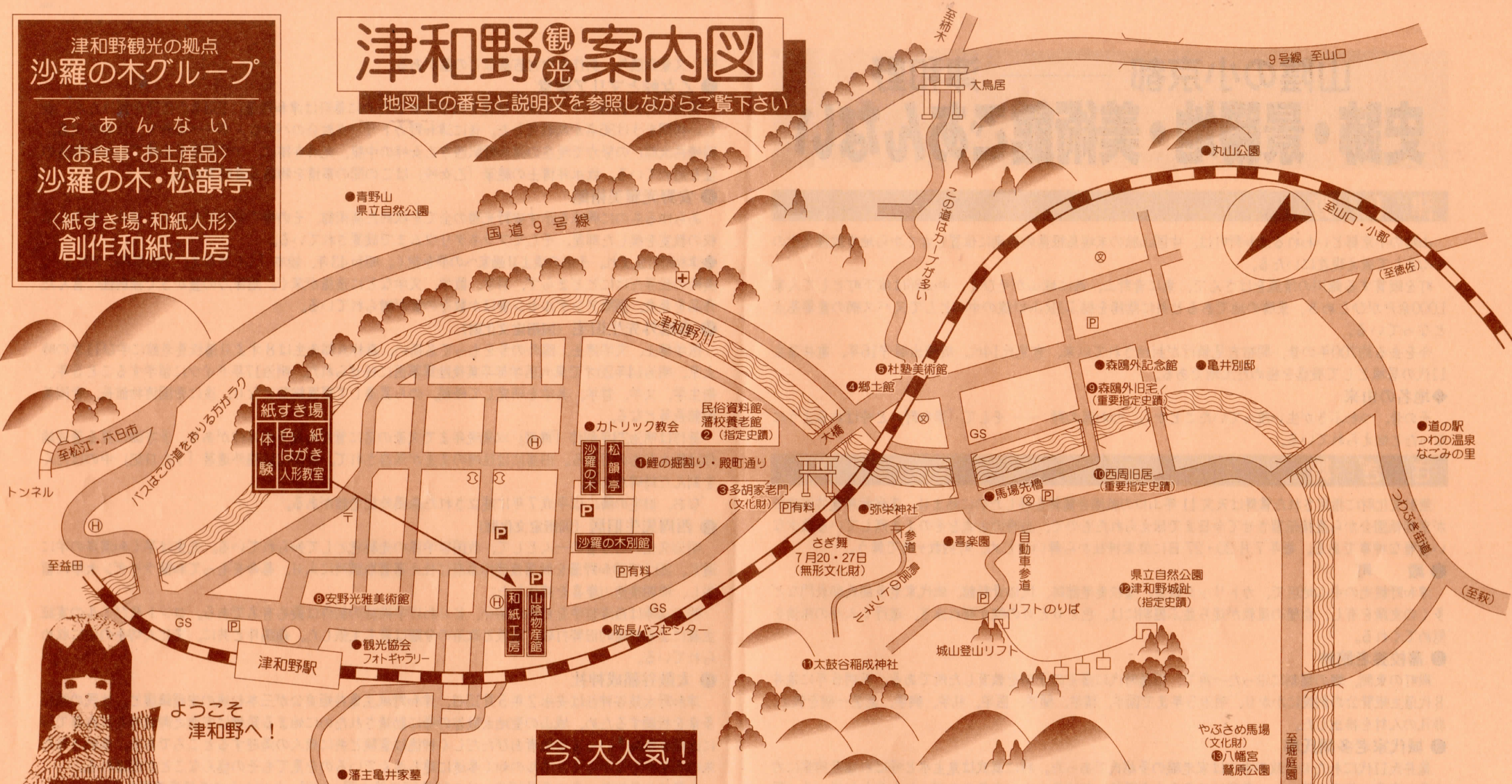
津和野観光の拠点  
**沙羅の木グループ**

ごあんない  
 〈お食事・お土産〉  
**沙羅の木・松韻亭**

〈紙すき場・和紙人形〉  
**創作和紙工房**

# 津和野観光案内図

地図上の番号と説明文を参照しながらご覧下さい



ようこそ  
 津和野へ！

制作：沙羅の木・松韻亭

津和野町殿町 ☎0856-72-1661(代)

今、大人気！

**SL貴婦人弁当  
 銀山弁当**  
 (お持ち帰り、可)

おみやげに  
 ことびきや  
**名菓 源氏巻**

文芸茶房 **沙羅の木本店**

文豪森鷗外の作詩「沙羅の木」に  
 ちなんで名付けた明治調の心なご  
 文芸茶房で憩いのひととき厳選した  
 珈琲を、ご賞味ください。

- 東京・大阪方面から (六日市IC-津和野) 約1時間
- 〃 山陽道 (新岩国IC-津和野) 約1時間30分
- 九州方面から (小郡IC-津和野) 約1時間30分
- 萩から (国道9号線-津和野) 約1時間20分
- 〃 (国道315号経由) 約1時間

◆沙羅の木駐車場からの(徒歩)所要時間

①殿町	松韻亭前	⑧安野光雅美術館	15分
②養老館	5分	⑨森鷗外旧宅・記念館	20分
③多胡家老門	5分	⑩西周旧居	25分
④郷土館	6分	⑪太鼓谷稲成神社	25分
⑤杜塾美術館	6分	⑫城址	1時間
⑥永明寺	7分	⑬鷹原公園	40分
⑦マリア聖堂	20分		

※説明は裏面をご覧ください



# 山陰の小京都 ——— 津和野

## 史跡・景勝地・美術館ごあんない

### 津 和 野

山陰の小京都といわれる津和野町は、中国山脈の末端島根県の西南に位置し古くから地方政経文化の中心として栄え現在にいたる。

町を縦貫する錦川の清流をはさんで、東に青野山、西に城山がそびえ、中心部は城下町として人家1,000余戸がひしめき、景勝の地であると共に陰陽を結ぶJR山口線の中心として又バス網の重要基点となっている。

今を去る約700年の昔、開祖吉見頼行が封地されて以来、吉見氏14代、坂崎出羽守16年、亀井藩主11代の居城として殷盛を極めた土地である。

#### ◆地名の由来

その昔、つわぶきが生い茂っていたことから、つわ落の野——そして「津和野」と呼ばれるようになったと伝えられている。

### さ ぎ 舞

無形文化財に指定された鷺舞は天文11年山口の祇園会鷺舞を移したのに始まり、正保元年亀井滋政公が京都祇園会から直接伝習させて今日まで伝えられたもので、当時の古式をそのまま残している数少ない優雅な神事である。毎年7月20・27日に弥栄神社から舞いはじめ、町内数ヶ所で舞う。

#### ① 殿 町

津和野観光の中心地区で、カトリック教会、藩校養老館跡、民俗資料館、城代家老多胡氏邸表門など多くの史蹟を有し、白壁の屋敷が建ち並ぶ掘割には、色とりどりの鯉が群れ泳ぎ、道行く人々の旅情を慰めてくれる。

#### ② 藩校養老館跡

殿町の東側、鯉の掘割に沿った一角で、旧藩時代に藩士の子弟を教育した所である。天明6年に亀井8代藩主矩賢公の創設にかかり、明治5年まで国学、儒学、蘭学、医学、礼学、興学、武芸一般を教え、非凡の人材を排出した。

#### ③ 城代家老多胡氏邸

亀井氏11代にわたり行政の中心は家老職の多胡氏であった。特に真武は鬼主水と呼ばれ殖産興業に力を尽し産業の基礎を築いた。真藩は仮名手本忠臣蔵における加古川本蔵のモデルとも云われている。殿町通りに表門を残し、文化財に指定されている。

#### ④ 郷 土 館

殿町に通ずる大橋のそばにあり、館内には鎌倉末期以降の郷土史資料、美術工芸品、郷土先哲偉人の遺品など重要資料を収蔵展示している。県下唯一の歴史博物館と云われている。

#### ⑤ 杜塾美術館

津和野藩の筆頭庄屋屋敷、大きな桁や大黒柱が残る古い屋敷を往時のままに修復した美しい木組の美術館。津和野が育んだ中尾彰画伯の大作も含め数多くの美しい作品を展示している。

#### ⑥ 覚皇山永明寺

石見における曹洞宗の古刹、開山は大本山永平寺道元禅師の法孫、月因和尚で往時は常に200名を越える学僧、雲水が修業にはげんだ。吉見、坂崎、亀井歴代城主の菩提寺で境内には悲恋の武将坂崎出羽

守、文豪森鷗外、劇作家中村吉蔵などの墓がある。

#### ⑦ 乙女峠とマリア聖堂

明治の初め長崎のキリシタン信徒を改宗させるために幕府は津和野藩に153名の信徒を預けたが、厳しい拷問をうけ36名が殉教死した。後に津和野カトリック教会のパウロ・ネーベル神父（日本帰化名、岡崎祐次郎）の努力で現在の津和野駅西方乙女峠の中腹、光林寺跡に、マリア聖堂が建てられ殉教徒の霊を慰めている。故永井博士の絶筆「乙女峠」はこの間の事情を物語る資料である。

#### ⑧ 安野光雅美術館

あらゆるものに興味を示す安野光雅の全てを収めた美術館、その場で制作できるアトリエ、昔の小学校の教室を模した部屋、そしてプラネタリウムまで設置されている。

◆津和野町生まれ。子供の頃より画家への夢を抱く。昭和43年、絵本「ふしぎなえ」で絵本界にデビュー。美術の世界だけにとどまらず、科学、数学、文学などに造詣が深く、想像力の豊かさに独創性に富んだ作品を発表、国際アンデルセン賞ほか数々の賞が贈られている。

#### ⑨ 森鷗外先生旧宅（国指定文化財）

医学博士、文学博士、鷗外の号をもって名高い、森林太郎先生は8才より藩校養老館に学び11才の時上京、明治14年20才で東大医学部卒業後陸軍軍医に任ぜられた、明治17年ドイツに留学すること5年、衛生学、文学、哲学、美学を研究して帰朝。のち累進して軍医総監となり、後に帝国博物館長、帝国美術館長等となる。

著作は明治23年創作「舞姫」以来晩年まで文豪の名に背かぬ幾多の名作があり、多方面に亘る著述論作は膨大なものである。旧居には往時のままが保存されて、庭園には鷗外遺著「うた日記」中のぼたんを刻んだ詩碑がある。

なお、旧宅の隣には平成7年に建立された森鷗外記念館がある。

#### ⑩ 西周先生旧居（国指定文化財）

明治文化の功労者の一人として、我国哲学界の先駆者として知られている。先生は早く和漢洋の学に通じ、29才で津和野藩を脱藩後徳川幕府に仕え蕃書取調所に入り、幕命をもって和蘭ライデン大学に留学し、帰朝後徳川慶喜を補佐した。

明治以降は西洋哲学を日本に紹介、とりわけ学術語の制作は最も有名である。コント及びミルの実証主義による封建的旧弊打破、宗教と政治の分離は最も主張した。森鷗外と共に、文化人切手の中に収められている。

#### ⑪ 太鼓谷稲成神社

津和野太鼓谷神社は安永2年5月15日、津和野城主亀井矩貞公が三本松城の安穩鎮護と、住民の福祉多幸を祈願するため、城山の聖地太鼓谷の峰に勧請されたのに始まる祭神は宇迦之御魂神井井尊で俗に太鼓谷稲成といって崇敬者おびただしく神徳は靈験と共に衆人の渴迎するところである。奉納された朱の鳥居がさながらトンネルの如く参道に建ち並んでいるのを見てもその盛んなことが偲ばれる。

大祭は2月初午、春の5月15日、秋の11月15日等中国、四国、九州からの参拝客で賑わう。

#### ⑫ 津和野城趾（国指定文化財）

文部省の指定史跡で、三本松城あるいは落城、たく吾城などと称し、文永、弘安の役の勲功として、西石見の追補使（地頭職）に任ぜられた吉見頼行公が永仁3年築城に着手したと伝えられている。坂崎出羽守が慶長5年入城後、本城の北200mの山頂に織部丸と称する出丸を築城、城は明治7年に解城され、今日山頂には苔むす巨大な石畳を残して歴史の跡を偲ばせている。登山リフト乗場からリフトを利用すれば城趾まで徒歩を入れて往復50分程度。

#### ⑬ 鷺原公園（やぶさめ馬場）

鎌倉末期に吉見氏が、三本松城の守護として、鎌倉鶴岡八幡宮より勧請した八幡宮である。境内には流鏝馬の馬場もその形を残した日本唯一の横馬場として知られ現在でも小笠原流のやぶさめが続けられ、毎年4月第2日曜日桜吹雪の中雄姿を見せてくれる。